

地層処分セミナー in 松山 開催結果

日 時：2016年10月16日（日）13:30～16:30

場 所：リジェール松山 クリスタルホール（愛媛県松山市）

後 援：経済産業省・資源エネルギー庁、日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会、
全国商工会連合会、電気事業連合会、四国電力株式会社

参加者数：26名

プログラム：

(1) 映像 (DVD「地層処分とは」)

(2) 説明 専門家、NUMO

■ 専門家 (敬称略)

朽山 修 (原子力安全研究協会技術顧問、

総合資源エネルギー調査会 地層処分技術ワーキンググループ委員長)

谷 和夫 (東京海洋大学学術研究院教授、

総合資源エネルギー調査会 地層処分技術ワーキンググループ委員)

(3) 質疑応答 (主な内容)

Q. 解説映像で廃棄物を埋めているシーンがあったが、人の手で行うのか。

A. ガラス固化体は放射線レベルが高いため、ガラス固化体をオーバーパックに封入する作業や成型加工された固化体を緩衝材とともに定置する作業などは遠隔操作で実施する予定である。

Q. 科学的有望地公表に当たっては、事前に水面下で有望地を抱える各自治体の首長の了解を取ってから行うのか。

A. 科学的有望地の提示は、地層処分に関する科学的な適性を日本地図で示すものであって、調査の申し入れをお願いするものではないため、首長に事前に了解を取るようなものではない。

Q. 科学的有望地は何ヶ所提示されるのか。

A. 科学的有望地の提示とは特定の自治体を提示するものではなく、日本の国土を「適性の低い地域」「適性がある地域」「より適性の高い地域」の3つに区分するものである。区分のイメージは資料P. 45のスウェーデンの地図を参考にされたい。

Q. 子供向けの説明会などは行っているのか。

A. 地層処分事業についてご家族で楽しく体験いただけるよう、ジオ・ミライ号というトレーラーで全国の科学館等を巡回し、PRしている。「ジオ・ミライ号」では、3D映像の放映や緩衝剤のベントナイトを使った実験などを通じて、地層処分について知っていただいている。

また、夏休みには「深地層の研究施設 親子サマーツアー」を開催している。これは小学校4年生から中学校3年生までの子供とその保護者を対象とした岐阜県にある瑞浪超深地層研究所の見学会で、非常にご好評いただいている。

Q. 地層処分の事業費はどれ位か。

A. コストは事業全体で約3.7兆円を見込んでいる。原資は原子力発電所を持っている電力会社から拠出金として頂いて運用している。税金ではない。

Q. 原子力発電所が再稼働すれば放射性廃棄物は増え続けるのではないか。

A. 再稼働すれば当然増える。最終処分法に基づく基本計画で40,000本以上のガラス固化体を埋設できる施設を1ヶ所建設する計画。

Q. 科学的有望地が出ると、その土地の人は驚いて反発するのではないか。

A. 科学的有望地イコール候補地ではない。そこまでピンポイントで絞りこむようなものにはならないはずである。皆さんには冷静に受け止めつつ、関心を持っていただきたい。安全に処分可能かどうかは実際に調査をしてみないとわからない。調査は段階的に約20年をかけて慎重に行う。調査をして駄目となればそこは処分地にはならないし、調査結果は皆さんにお示しする。最終的には自治体

の首長が次の段階に進むか地域の意見として表明することになる。

Q. 説明を聞くとよくわかるし安全だと思うが、想定外についてどのように考えているのか。

A. あり得ないと思えるようなことでも様々なシナリオを作り、安全評価を行う。このような検討は今後も我々の課題として継続し、安全性に対する信頼性を高めていきたい。

○その他意見

- ・この様なセミナーには自治体の人や、マスコミなども参加して勉強してほしい。誘致をする担当者や報道する記者たちがまずきちんと理解すべき。

以 上